

TECH 21

YYZ

USER GUIDE

1 はじめに

この度は TECH 21 製品をお買い上げ頂き誠にありがとうございます。
本製品の性能を最大限に引き出すためにご使用前にかならず内容をよくお読みください。
Geddy Lee は 1996 年の Echo Tour 以来、ステージ上のアンプやスピーカーを使わずに演奏を続けてきました。新しいプロジェクトのためにギアを合理化しそして単純化したいと考え、Geddy は GED-2112 を Tech 21 と開発しました。Geddy 曰く、「GED-2112 は私のベーストーンへの長年のアプローチの結晶です。私が SansAmp RPM から得た「エッジの効いたクランチ」と「ディープクリーントーン」がすべてこの中に入っています。」そして今、新たな挑戦として、超コンパクトでポータブルな、ペダル形式のモデルを開発しました。
SansAmp YYZ は、Geddy のサウンドに加えさまざまなスタイルに対応する多様性を実現しました。Tech 21 の独自の 100%アナログ回路がまるで真空管プリアンプをマイキングしているかのような自然な暖かさと存在感を演出。スタジオやライブの場合は、SansAmp 真空管エミュレーション技術により、ミキサーへ直接接続することができます。

2 接続

ベースアンプとの接続：

プリアンプとして接続：

本製品の出力を直接パワーアンプの INPUT(またはベースアンプの「エフェクトリターン」)に接続します。これによりアンプのプリアンプ部をスルーして本機でコントロール可能です。

外部エフェクトとして接続：

1/4 インチ出力をベースアンプのフロント入力(メインの入力端子)に接続します。最良の結果を得るには、アンプへの入力が過負荷にならないように、SansAmp のレベルを必ずユニティゲイン(出力レベルが本機の ON/OFF 時でほぼ同じ状態)に近づけてください。

フロント入力を使用するときアンプを設定するためのヒント：

1. LOW ゲインチャンネル入力に接続します
2. プレゼンスコントロール(該当する場合)を 12 時以下に設定します。
3. アンプ側のトーンコントロールをできるだけフラットに設定します。

2 接続

PA パワーアンプへ接続：

1/4" 出力もしくは XLR OUT を PA ミキサー、もしくは、PA パワーアンプの入力に接続します。本製品の Level コントロールで音量を調節します。

ダイレクトにレコーディングする：

XLR または 1/4" フォン出力をミキサー/レコーダーの入力に直接接続します。ミキサー/レコーダーのインプットゲインコントロールを操作して入力が過負荷にならないように調節してください。本機のレベルが 12 時を下回っていても過負荷になっている場合は、それぞれの出力レベルスイッチを使って出力を下げます。これらのフルレンジシステムは幅広い周波数に対応しています。まずは 12 時の EQ レベルから始めてください。

3 入出力

入力レベルについて：

本機はベース本体、ディストーションペダルのアウトプットなど、インストゥルメントレベルのインプット信号を入力するように設計されています。想定の入力信号レベルはおおよそ -10dB / 250mV です。(一般的なエレキギターに近い数値)

注意：高出力なピックアップは本機のゲイン構造を増加させます。

1/4" フォン入力：

1/4" フォン 1MΩ、インストゥルメントレベル。プラグが入力されると自動で電源を ON します。バッテリーの消耗を防ぐため、本機を使用していないときはプラグを抜いてください。

注意：絶対にアンプのスピーカー・アウトから本機の入力に直接接続しないで下さい。アンプや本機が故障する恐れがあります。

1/4" フォン出力：

アンバランス低インピーダンス出力。あらゆる機材と互換性があります。フルレンジ(テープ、スタジオモニター、PA、ステレオ)とリミテッドレンジ(ラックシステム、プリアンプ、ヘッドとキャビネット、コンボ、練習用アンプ)。

4 コントロール

GED-2112 は、パラレルプリアンプのために 2 つの別々の内部プリアンプを並行して走らせる構造を取り入れました。このコンセプトに沿って、YYZ ペダルは、独自の Mix コントロールを介して 2 つのシグナルパスを簡単にブレンドするための構造を取り入れました。

DRIVE：

ゲインとオーバードライブの全体的な量を調整します。真空管アンプのオーバードライブを再現します。クリーンサウンドでは入力感度を調整します。太いクリーンサウンドを作る場合は、Drive が歪むまで大きくし、その後消えるまで徐々に小さくします。

HIGH, LOW：

カットするだけのパッシブトーンコントロールとは異なり、12 時位置を ± 0 として ± 12 dB カットまたはブーストします。HIGH は 3.2kHz, LOW は 80 Hz が中心周波数です。

MID：

2kHz @ 20dB ブースト / 1kHz @ 10dB カットします。

4 コントロール

TIGHT ボタン：

ON () にするとクリーンサウンドでは明瞭さを、歪みサウンドでは鮮やかさを追加します。

MIX：

ハイエンドスタジオクリーン（ディープ）とダーティベースチューブアンプトーン（ドライブ）の比率を調節します。ディープサイドは、濃厚で肉付きの良いトーンを提供し、プリセットされた EQ カーブは Geddy のパーソナルスペックに合わせてカスタマイズされています。Drive 側は、自由度の高い GED-2112 に基づいています。

MASTER：

全体の音量を調節します。音質を変えずに出力レベルを調節します。

録音の場合は、12 時以上に設定することをお勧めします。

アンプで使用の場合は、出力レベルはバイパスの信号に近いか等しく設定してください。望ましくない不規則な歪みが起きる場合があります。

5 使用上のヒント

- ◆ 本機のコントロールは異常に緻密なセッティングを可能にするため細かく設定されています。最大の結果を得るためには、すべてを最大に設定する必要はありません。

最適な設定を見つけるには、12 時のトーンコントロールから始めて、必要に応じてカットまたはブーストします。設定はアンプや環境によって大きく異なるため、その都度ベストなサウンドを探してください。

- ◆ 本機のノイズレベルは非常に低く設計されていますが、入力ソースから発生するノイズを増幅する可能性があります。本機のコントロールは異常に敏感であり、高レベルの出力を出すために最大レベルの入力を必要としません。本機に入るノイズを最小限に抑えるために、エフェクターは、トーンコントロールをフラットに設定してください。もしブーストする必要があるならば、ゆっくりと控えめに設定してください。シングルコイルピックアップはノイズを生成する可能性が高くなります。しっかりとノイズ対策を行ってください。

- ◆ 演奏テクニックのダイナミクスとニュアンスに対する高い反応性を損なわないために通常、本体を本機に直接接続してください。

その他エフェクトを使用する際は一般的な使用方法として、
本機の前：コンプレッサー、エンベロープフィルター、ワウ等
本機の後：コーラス、ディストーション（その他）、エコー、リバーブ、ボリュームペダル等をおすすめしますが、お好みに合わせて配置してください。

- ◆ バッファードバイパスは、「トゥルーバイパス」のポップとクリック、および複数のペダルを接続したときの高音痩せなどの欠点や、スイッチング回路や長いケーブルによる信号のロスを軽減します。

- ◆ バッテリーの電圧が低下し始めると（約 6 ボルト）、LED は著しく暗くなります。